

平成24年度（第48期）収支予算

I. 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

(1) 経常収益

①基本財産運用収入 860万円（前期 974万円）

▽基本財産利息収入 706万円（前期 844万円）

基本財産として保有する国債2本、道債2本、海外金融債1本の運用益。いずれも額面1億円の利益確定型。前期は債権入れ替えによる差益が入った。今期は道債2本が償還を迎える。

▽基本財産配当金収入 154万円（前期 130万円）

配当金は基本財産として所有する道新株（15,400株）と北海道放送（HBC）株（3万株）の株式配当金で、HBCの配当金が24万円増となる。

【会計区分】全額、法人会計とする。

②貸付事業収入 1,239万円（前期 1,364万円）

貸付をしている社会福祉法人56件からの利息収入で前期より125万円の減。23年度は完済5件、繰り上げ償還3件で償還金合計7,523万円に対し、新規の貸付は2件5,500万円にとどまり、これで貸付残高は6億4,000万円となる。

【会計区分】全額、公益目的事業会計とする。

③寄付金収入 4,200万円（前期 4,000万円）

厳しい経済環境を反映、寄付金収入はここ数年、減少傾向にあったが、23年度は2年ぶりに若干の伸びを記録しそう。24年度から公益法人となり、寄付金に対する優遇制度も採り入れられるため、総額では5%増の4,200万円を見込んでいる。

【会計区分】総額4,200万円のうち、公益目的事業会計には3,858万円、法人会計に342万円を振り向ける。

23年度推計	40,000,000	（予算	40,000,000	±0)
22年度	38,962,061	（同	50,000,000	−1,137,939)
21年度	40,312,348	（同	50,000,000	−9,687,652)
20年度	47,104,447	（同	52,000,000	−4,895,553)
19年度	57,154,292	（同	45,000,000	+12,154,292)

④雑収入 860万円（前期 570万円）

▽受取利息収入

貸付事業、道新みらい君奨学金などの特定資産に引き当てた道債、札幌市債、海外金融債など債券5本の運用益。前期に高利率の海外金融債2本を買い入れたことから大幅に収益が上がっているが、従来から保有している海外金融債1本は変動金利の仕組債で、折からの円高もあって運用益がゼロの状態が続いている。

【会計区分】全額、公益目的事業会計とする。

(2) 経常費用

①事業費 6,820万円（前期 7,130万）

公益目的事業を行うための各種助成事業経費と基金事務職員の人件費、宣伝啓発費など事務経費。公益法人化に伴って記念の助成事業（300万円）を創設したが、従来の助成事業の内容を見直すことで歳末たすけあい助成で250万円、みらい君奨学金で200万円、一般公募助成で100万円を事業費から減らしたことなどから、総額では310万円を減額とした。

【会計区分】歳末たすけあい助成とその他助成事業は法人会計に区分し、それ以外の助成事業は公益目的事業会計に配分している。給与手当、退職給付費用、情報管理システム開発は事務局職員の従事割合（7：3）比率で公益目的事業会計と法人会計に按分。宣伝継発費は全額、公益目的事業会計とする。

②管理費 560万円（前期 470万円）

基金の運営に要する事務的経費。諸費（350万円）が公益法人化に伴う経費を公認会計士や司法書士に必要経費を支払うため、100万円の増額となった。

【会計区分】公益目的事業会計と法人会計に事務局職員の従事割合（7：3）の比率で按分している。

注記

1. 償還金収入 7,523万円（前期 8,030万円）
貸付をしている56件からの年賦償還金合計で、新規貸付が伸びていないことから、前期より507万円の減少となる。
2. 貸付支出 3,000万円（前期 6,000万円）
社会福祉法人などの施設整備する際の貸付事業。小規模な施設整備の問い合わせが来ており、3,000万円を計上した。